中央公民館だより

平成 29 年２月１日発行
三原市中央公民館
三原市円一町２丁目３番１号
TEL 0848-64-2137　FAX 64-0137

三原市の新成人は 916 人

大人の自覚をもち、自ら人生を切り拓こうとする新成人を祝い励ますための「新成人のつどい」が、去る１月８日(日)14:00 より、三原市芸術文化センター　ポポロにおいて開催されました。

今年の新成人は、平成８年４月２日～平成９年４月１日生まれの三原市在住または三原市出身の 916 名。うち 738 名の出席がありました。（ともに昨年比、約 100 名増）

「新成人のつどい」の第１部は「成人式典」で、次第は国歌・市歌斉唱、市長式辞、記念品贈呈、市議会議長祝辞、新成人誓いのことば。第２部の「新成人を祝う会」では、オープニングの南小学校児童による「やっさ踊り」の後、『メッセージムービー』、如水館中学高等学校生徒によるチアリーディング、『みはらクイズ抽選会』と、工夫を凝らしたアトラクションに興じました。

これからの地域づくり・まちづくりにも、若い活力がみなぎることを期待したいものです。

自然標本の宝庫 さざなみ学校 新聞社 三原転石会を取材

“自由人・夢中人・地域人“活動拝見⑩

中央公民館が管理している三原市地域学習センター「さざなみ学校」自然博物室は、知る人ぞ知る自然標本資料の宝庫。正式な博物館ではありませんが、それに匹敵するくらいの化石・岩石、貝類他数百点の標本を展示・収蔵しています。

その化石・岩石の展示や整理をしていただいているのが三原転石会＜広島地学会三原支部＞（田坂　亘　代表）。去る１月 12 日（木）、読売新聞の『県民情報』担当者から取材を受けました。２月号が幸崎町界隈のおもしろ情報を特集するのに合わせたものです。

三原転石会の活動は、40 年前に遡ります。学校教材としての岩石標本の収集を機に、市内の理科を担当する教職員が集い、市内外の産出地を巡検したのが始まりです。結成は、昭和 51 年８月１日。当初から歴史民俗資料館で「化石・岩石・鉱物展」や「地学講座」等が開催され、20 数年もの長きに亘って続きました。活動は活況を呈し類が類を呼び、同好の士も一時期は 40 数名に達しました。途上、歴史民俗資料館に標本を収蔵しきれなくなり、元久和喜小学校（現さざなみ学校）２階に立派な展示資料室が常設されました。貴重な写真やパネルも豊富で、正に会員の皆さんの労苦の結晶です。この間、地元の理科教育振興に果たした役割は計り知れないものがあります。

時代の流れとともに、現在は会員もかなり減少してきていますが、結成時の志は、今も脈々と受け継がれています。百聞は一見にしかず、岩石に興味のある人もない人も、是非一度、ご見学を!!驚きの光景を目の当たりにされることでしょう。

取材を受ける会員の方々

展示室での取材風景

市内採集の珪化木の説明

記者（左２人）と記念撮影

平成 28 年度 三原市中央公民館作品展示・学習発表会
開催のご案内

平成 28 年度の三原市中央公民館の作品展示・学習発表会を下記の要領で開催いたします。

この催しは，中央公民館を拠点に活動されている主催講座（今年度及び過年度）の各団体を対象に、次の目的で実施します。

① 日頃の学習成果を発表する機会を提供する。
② グループ間交流による研鑽の場とする。
③ 関係者のみならず、市民の皆さんにも活動をご理解いただく。

この時期恒例ですが，受講者の皆さんの創意工夫された学習成果が展示、並びに舞台で発表されます。是非ともご来場のうえ、一年間の学びの結晶をご覧ください。

昨年度の展示・舞台発表の様子

と き　作品展示：平成 29 年３月４日(土) ９時～17 時
５日(日) ９時～16 時
舞台発表：平成 29 年３月４日(土)13 時～16 時
５日(日) ９時 30 分～12 時
ところ　三原市中央公民館各室及びロビー　（予定）
※舞台発表は中講堂にて

みはら国際交流サロン情報②

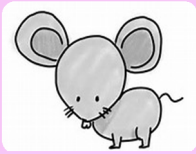
昨年の秋に実施した『日本語学習ボランティア養成講座』にて学ばれた方々が、ボランティア講師として活動を始められています。まず取り組みとしての一番の目的である、市内に住まいがある方や市内で働く外国人の方々に、日本語を楽しく学んでいただく為に毎日サロンでの教室が開かれています。日本語を学んだ後の雑談で、日本の文化にも興味が湧いてこられて質問を受けるそうです。こちらからも、他国の文化や風習を聞けたり、特に食べ物の話し(料理)は盛り上がるそうです。こういった事が、知りたい聞きたい学びたい意欲につながると先生のお話をお聞きしながら感じました。

みはら国際交流サロンへの問い合せは、三原市中央公民館へどうぞ！

編集後記

子育て中子どもから「大人になるって、一人前になるってどういうこと?」と　聞かれ頭を悩ましたことがあります。そんな折出会った一冊があります。いわむらかずお著、「トガリ山のぼうけん」です。物語は一匹のトガリィネズミのじいさんが若い頃一人前になる為に、トガリ山に登った話を三匹の孫ネズミに聞かせるところからはじまります。「トガリィネズミの祖先はとがり山から生まれてきたと言われているんじゃ、トガリ山のてっぺんはいつも雲にかくれ、天に突きささっていると思われるほど高い山なんじゃ」と始まります。冒険の途中で経験した様々な事象を楽しく語ります。ルリシジミ、殿様バッタ、ミズスマシ、てんとう虫、シオカラトンボ、ウソ、キノコ、濃い登場キャラクターの独特なセリフ回しも楽しく、どんどん引き込まれていきます。シオカラトンボは「俺はシオカラ色になったら一人前さ」と言い切ります。トガリィは、「身体が成長したら一人前になったということ？」と自問自答し、自分が生きる為に犠牲にして食べた殿様バッタに感謝しながらとがり山のてっぺんを目指します。山から風・水・雲が生まれ、自然のあるべき姿や植物の役割、生物の成り立ちにも興味がわいてきます。

最後に孫ネズミ達が「それでじいちゃんは一人前になったんだね！」と問います。
「さぁ～どうじゃろなぁ～」と答えたトガリィじいさんの言葉に、私自身を重ねます。まだまだ道途中。



お問い合わせ・ご相談は、三原市中央公民館(TEL0848-64-2137　FAX64-0137)　生涯学習相談員　中山・村上まで